

農山村の地域資源を次世代に

『都市と農山村をつなぐボランティア活動』

# とちぎ夢大地応援団

平成30年度とちぎ夢大地応援団活動の様子



塩谷町鳥羽新田



塩谷町山口



那須烏山市大木須上

平成30年度とちぎ夢大地応援団カレッジ活動の様子



塩谷町山口



大田原市両郷

平成30年度とちぎ夢大地応援団新規推進地区の活動が、11月に塩谷町鳥羽新田、12月に同町山口、31年1月に那須烏山市大木須上で、それぞれ行われました。

また、とちぎ夢大地応援団カレッジ活動は、第2回が12月に塩谷町山口で、第3回が31年2月に大田原市両郷で、それぞれ行われました。

(2～5頁に詳細)

はばたけ夢大地

第26号

2019/3

とちぎ夢大地応援団事務局  
(公財) 栃木県農業振興公社  
栃木県農政部農村振興課

## 平成30年度とちぎ夢大地応援団活動の様子

平成30年度とちぎ夢大地応援団新規推進地区の活動が、11月に塩谷町鳥羽新田、12月に同町山口、31年1月に那須烏山市大木須上でそれぞれ行われましたので、活動の内容を紹介します。



### 塩谷町鳥羽新田地区

#### 「イノシシ・シカ等侵入防止柵設置作業」

とちぎ夢大地応援団活動が塩谷町鳥羽新田において11月23日、夢大地応援団員41名、地元鳥羽新田農地保全委員会（田中良一会長）会員22名が参加して行われ、イノシシやシカ等獣害を防ぐための柵を1.8kmにわたって設置しました。

当日の夢大地応援団員の内訳は、一般団員9名、企業の地域社会貢献活動として参加した大和ハウス工業(株)宇都宮支社従業員10名、栃木明治牛乳(株)従業員9名、県農政部や高根沢町産業課の職員7名からです。開会式で田中会長から歓迎のあいさつを受けた後、6班に分かれて山林内に入りました。応援団員はその後、各班長らから作業の手順を教わり、メッシュ柵を運ぶ人、柵を鉄の支柱に結束する人などの担当に分かれて、次々とフェンスをつないでいきました。

閉会式では田中会長から「皆さんのお陰で計画通りの作業ができた。ぜひ鳥羽新田にまた遊びに来てください」とお礼の言葉がありました。また、参加した会社の代表からは「楽しんで作業ができた。また機会があれば参加したい」と感想が語られました。



みんなで協力して次々とフェンスをつないでいきます



### 塩谷町山口地区

#### 「イノシシ・シカ等侵入防止柵設置作業」

とちぎ夢大地応援団活動が塩谷町船生の山口地区において12月8日、夢大地応援団員49名、夢大地応援団カレッジ13名、地元山口区獣害対策委員会（阿久津忠勝会長）会員50名、関係機関10名の総勢122名が参加して行われ、イノシシやシカ等獣害を防ぐための柵を2.8kmにわたって設置しました。

当日の夢大地応援団員の内訳は、一般会員6名、企業の地域社会貢献活動として参加した栃木明治牛乳(株)従業員11名、大和ハウス工業(株)宇都宮支社従業員8名、ボランティア団体ナルク栃木会員8名、地元建設会社関係者7名、県農政部職員9名です。

開会式で阿久津会長から歓迎のあいさつを受けたあと、応援団員は15班に分かれて山林内に入り、各班長らの指示に従い、次々とフェンスをつないでいきました。場所によっては地面が固く柵が埋まらず苦勞する班もありました。



開会式の後、柵の張り方の指導を受けました



地面が固くて柵が埋まらず苦勞する場所もありました



完成した柵



## 那須烏山市大木須上地区 「イノシシ等侵入防止柵設置作業」

とちぎ夢大地応援団活動が那須烏山市大木須上地区において1月19日、夢大地応援団員26名、地元人有田環境保全組合（小室憲夫組合長）の組合員18名、那須烏山市農政課職員5名が参加して行われ、イノシシ等獣害を防ぐための柵を1.5kmにわたって設置しました。

当日の夢大地応援団員の内訳は、一般会員のほかボランティア団体ナルク栃木の会員7名や企業の地域社会貢献活動として参加したカルビー(株)宇都宮工場従業員3名、県農政部職員5名らです。開会式で川俣純子那須烏山市長から「多くのボランティアの方々に参加してくださり、大変うれしい」と歓迎のあいさつを受けた後、3班に分かれて地区内のソバ畑や山すそに入りました。応援団員は、地元の人たちと一緒に、ワイヤメッシュ柵を埋める人、鉄の支柱を打ち込む人、柵を結束する人などの担当に分かれて、熱心に作業をすすめていきました。

閉会式では地元の人から「おかげさまで予定した柵の設置ができた。また大木須の地に遊びに来てください」とお礼の言葉が述べられました。



ソバ畑の周りに柵を張る応援団員



昼食は温室ハウス内特設会場

## 平成30年度とちぎ夢大地応援団カレッジ活動の様子

とちぎ夢大地応援団カレッジ活動は、平成23年度から実施しているもので、次世代を担う若い人たちが農地保全などの活動を通じて豊かな農村環境の維持・保全の大切さを学び、さらに伝統文化に触れ農業農村への理解を深めてもらうための活動です。

今年度は、作新学院大学の学生を対象に3回実施しましたので、以下に活動の様子を紹介します。(第1回の内容は『はばたけ夢大地第25号』で紹介済み)

### ☆ 第2回活動報告 H30・12・8(土)「塩谷町山口地区」

同学から、留学生が多くを占めるサークル作大ロータークトより、社会貢献に関心の高い学生ら11名と教務課職員2名が参加し、地元の人たちと合わせて約120名が、山林内に獣害を防ぐ侵入防止柵を取り付けました。今回担当した場所は、地中に石が多く、支柱を打ち込むのにとっても苦勞しました。同地区は、シカやイノシシによる稲やソバへの被害が甚大だそうです。



▲柵の固定法を学びます



▲実際に固定してみました



▲お昼はカレーライスに舌鼓

### ☆ 第3回活動報告 H31・2・9(土)「大田原市両郷地区」

この日は、学生課職員3名を含む17名が参加。市内イチゴ苗生産農家、益子鐵夫さん方ハウスで、イチゴの管理に関わる農作業を行いました。終始、腰をかがめる根気のいる仕事でしたが、熱心に取り組みました。お昼ごはんは益子さん宅でピザを焼いて談笑の輪が広がりました。ある学生は「実際に作業し、交流することで、農家の実情を知ることができた。農業が身近になった」と話していました。



▲地道な作業が続きます



▲直接、農家さんから指導も



▲お昼ごはんも御覧のとおり

## カレッジ活動（2月9日大田原市両郷地区）に参加して

経営学部 経営学科 2年 TRAN HOAN VU (チャン ホアン ブー) ベトナム

私はベトナムから来日し、作新学院大学の経営学部に通う学生です。今回の「とちぎ夢大地応援団カレッジ」の活動が、日本に来て初めて参加したボランティア活動となります。

今回、作新学院大学のサークル「作大ローターアクト」のメンバーと、違う学部日本人学生と一緒に参加しました。

ボランティアの内容は、イチゴの苗を早く生長させるために、枯葉を切り取る作業でした。慣れない作業で最初は大変でしたが、話しながら作業していくうちに徐々に楽しくなり、活動を通して皆さんと友達になることもできました。

一番楽しかったことは、昼食時の交流です。ピザを焼くために食材や窯が準備されており、私は初めてピザ焼きも体験しました。ピザの他、農家のママさんたちが朝早くから作ってくれた料理もご馳走になり、おなかいっぱいいただきました。活動の最後、記念写真を撮影したときに、「また機会があればおいでね」と言っていたいただき、心が温まりました。

農業ボランティアの体験をさせて頂いたことを心から感謝します。今後も機会があれば、是非参加させていただきたいと思います。



人間文化学部 4年 土屋 恵太

今回、「ガーデンハウス3匹のこぶた 農村体験 ばあちゃんの会」様の園芸ハウスにて、イチゴ苗の生産作業のお手伝いをさせていただきました。ハウスの中での作業ではありませんでしたが、当日は雪が降っており、とても寒い中での作業でした。はじめに、園芸ハウスの所有者であります益子様から、イチゴの苗の葉かき、芽かきのやり方を教わり、作業に取り掛かりました。しかし始めてみると、難しいかつ地道な作業の連続で、大量のイチゴ苗を相手にひたすら地道な作業を続ける農家の方々の日々の努力が垣間見えた気がしました。



お昼には、農家の方々お手製のピザやけんちん汁、お漬物、刺身こんにゃくなどの豪華なお食事をいただきました。ピザに関しては、自分たちの手でトッピングや焼き上げなどの体験をさせていただきました。おいしい食事の数々に舌鼓を打ちつつ、農家の方々が一生懸命に作り上げた食材や、普段ご飯を作ってくれている人への感謝を忘れてはいけなと改めて思いました。作業は降雪のため当初の予定通りにはいかず、午前中のみとなってしまいましたが、このボランティアを通じて、我々学生が農業について改めて考え直す機会を与えていただきました。このような活動がもっと周知され、日本の若者全体が農業などについて考える機会が増えていけばと思います。

# 中山間地域等直接支払制度に取り組む集落においてよっ！

## ～「とちぎ夢大地応援団」との連携～

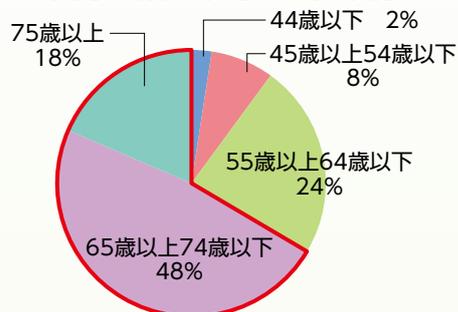
『塩谷町鳥羽新田地区（集落）』では、中山間地域等直接支払制度（以下、「制度」という）に取り組んでおり、平成30（2018）年11月に「とちぎ夢大地応援団」と連携し、獣害を防ぐ侵入防止柵を設置しました。

制度に取り組む集落は県内に200余りありますが、参加者の約7割が65歳以上であり（右図）、高齢化が進んでいます。

また、制度開始から約20年が経過し、取組の継続や維持が難しいと考えている集落もあり、「とちぎ夢大地応援団」との連携が中山間地域の一助になると考えています。

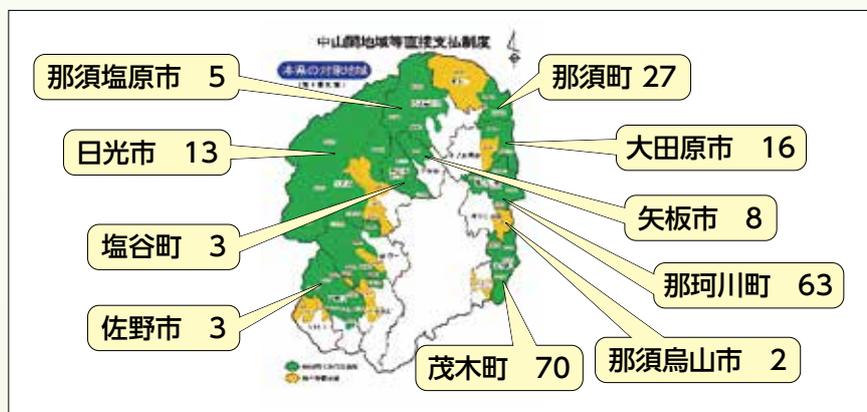
県では、今後も制度に取り組む集落と「とちぎ夢大地応援団」との連携を進めていきます。

県内の協定参加者年齢構成



参加者の約7割が65歳以上

### ○中山間地域等直接支払の取組状況（平成30年度）



### ○中山間地域等直接支払制度の取組紹介【矢板市 第二農場集落協定】

集落協定に基づくオーナー制度の導入により、景観維持に対する意識が向上し、農地維持、集落機能の維持と地域活性化に繋がっています。



<地区の全景>



<草刈りの様子>



<棚田オーナーによる田植え>

### ○中山間地域等直接支払制度とは？

農業生産条件の不利な中山間地域等において、集落等を単位に、農用地を維持・管理していくための取決め（協定）を締結し、それにしたがって農業生産活動等を行う場合に、面積に応じて一定額を交付する仕組みです。

（県農政部農村振興課）

## とちぎ夢大地応援団事務局

（公財）栃木県農業振興公社

〒320-0047 宇都宮市一の沢2-2-13  
TEL 028-648-9515 FAX 028-648-9517

栃木県農政部農村振興課  
農村・中山間地域担当  
里づくりチーム

〒320-8501 宇都宮市塙田1-1-20  
TEL 028-623-2334 FAX 028-623-2337

<http://www.tochigi-agri.or.jp/yumedaichiouendan/index>

とちぎ夢大地応援団

